

はじめに

昨年は、台風第6号・7号・13号や7月豪雨など多くの風水害による自然災害に見舞われました。そして、年が明けた元日に発生しました令和6年能登半島地震では、多くの住民が犠牲になり石川県をはじめ北陸地方は甚大な被害となりました。

令和5年は、過去最大の死者行方不明者となった関東大震災から100年の年でした。そして以降直近30年を見ましても、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震など本当に多くの地震が発生してきました。

そして近年、南海トラフ巨大地震、上町断層地帯の内陸地震などの発生が危惧されています。災害対応では「自助」・「共助」・「公助」の中で「共助」が特に重要であると言われていています。そのため消防は地域防災を担う自主防災組織の活動支援にも取り組んでおります。防災組織の防災力の向上、地域による災害の備えが被災地の安全・安心につながると確信しています。

約4年間続いた新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日に第5類へと移行し、社会全体はアフターコロナへと進みかけていました。しかし、インフルエンザの大流行によりマスク社会からなかなか抜け出せない状況となっています。その影響もあって昨年の堺市消防局管内の救急件数は、新型コロナウイルス感染の始まりの令和2年の減少した年を除けば、令和3年以降も増加を続け過去最高の70,741件（北署管内も過去最高で10,897件）となっています。

昨年10月2日に増加する救急需要に対し、本部日勤者による本部機動救急隊を発足させ救急件数の多い日中の時間帯のみの搬送とする臨時救急隊を増隊して対応しております。救急対応は年を追うごとに切迫してきています。昨年に引き続き「救急の適正利用の推進」を呼び掛けていきますので今年もご協力よろしく申し上げます。

火災件数はここ数年減少傾向が続いており、北消防署は「火災による死者ゼロ500日」を達成し本部から8月に表彰されました。さらに区民の皆さまと防災意識の高揚と火災の発生抑止に努めていきます。

最後に、北消防署は金岡消防署として開署以来、50年が過ぎました。区民の皆様とともに消防行政を歩んできたものと感じております。これからも北区の安全と安心を担う防災組織として職員一同励んでまいります。本年も引き続き消防署へのご理解とご協力をお願いいたします。

堺市北消防署長 上野 栄太郎

令和6年能登半島地震

令和6年1月1日（16時10分）に発生した能登半島地震、規模はマグニチュード7.6で震度7の激しい地震でした。家屋の倒壊、ライフラインの破壊、珠洲市では津波が押し寄せ町を飲み込みました。また、能登半島の北側海岸が海底の隆起により4m近くせり上がり海岸線が数十メートル近くも沖合になるという数千年に一度の現象が起きました。

さらに、大火となった輪島朝市の火災では、消火栓からは水が出ない、消防車両は来ない（地元消防も被災している）、近隣消防本部からの応援も道路の亀裂や陥没、山がけ崩れ等の寸断により来られない状況では、延焼を防止することは困難でした。

阪神淡路大震災や東日本大震災でも発生し能登半島地震でも多くの方が火災による犠牲になりましたが改めて地震火災の恐ろしさを思い知らされました。

消防活動は、石川県内応援消防本部と全国21の都府県から緊急消防援助隊が応援派遣されました。堺市消防局も府内の消防本部と共に大阪府隊として輪島市内で活動してきました。北消防署からはポンプ小隊が第1次派遣隊として活動してきました。現地では断続する大きな余震、走行できない道路、活動時の吹雪など厳しい状況でした。多くの隊員は現地を離れる際「もっと救助したかった」との思いでありました。その思いを次の派遣隊に託して帰隊しております。大阪府隊の活動期間は、1月1日から2月2日までの33日間で堺市消防局からは186名の隊員が派遣されました。

最後に、能登半島地震によりお亡くなりになりました人々へご冥福をお祈り申し上げます。また、被災されました多くの住民の心身の回復と一日も早い被災地の復興を署員一同心から願っております。

北消防署員一同

